

令和7年度

陸稲栽培試験（新規）

1 目的・背景

温暖化の進行した実態下で、陸稲栽培の地域適合性を検討する。

2 実施機関 JA帯広かわにし

3 試験場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センター

4 試験方法

- (1) 品種 「ななつぼし」「きたくりん」
- (2) 試験面積 51 m² (1品種2畦×33cm×19m×3品種)
- (3) 播種月日 5月16日
- (4) 栽植密度 畦幅33cm：291粒/m²(ごんべいリンクベルト1005)

5 耕種概要

施肥	施肥銘柄	施肥量 全層施肥	施肥成分量	種子消毒
5月16日	S555	50kg/10a	N7.5-P7.5-K7.5-Mg3	ベンレートTコート 0.5%
5月16日	ヨウリン	50kg/10a		
除草剤散布	除草剤名	病虫害防除		
5月20日	ゴーゴーサン乳剤	アヒゲホトトリスカメなど虫害対策：2回 (8/12、8/21)		

6 生育調査

- ① 除草剤の使用時期が遅れたこともあり、生育期間を通してノビエの除草に追われた。
- ② 出芽まで12日を要した。
- ③ 「きたくりん」の出穂が「ななつぼし」より3日程度早かったが、成熟期は「ななつぼし」が10日以上早かった。
- ④ 「きたくりん」の節間が短く、稈長が低かった。
- ⑤ 「ななつぼし」の生育は旺盛で、成熟期には「きたくりん」と稈長穂長で差が明らかだった。
- ⑥ 生育期間を通して病害の発生は気にならなかったものの、アヒゲホトトリスカメの発生が多く、2回の殺虫剤散布を行った。

表-1 生育調査

品種	播種日	出芽期	分けつ始	出穂期	成熟期	収穫	はさがけ	脱穀
ななつぼし	5月16日	5月28日	6月25日	8月8日	9月23日	10月2日	10月3日	10月16日
きたくりん	5月16日	5月28日	6月28日	8月5日 (10月4日)				

品種	茎数推移 (本/m ²)			成熟期		
	7月1日	7月17日	8月9日	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)
ななつぼし	1,145	830	679	67.8	16.3	563
きたくりん	952	824	745	55.5	13.5	530

7 収量調査

- ① 「ななつぼし」の玄米重は「きたくりん」を大きく上回った。
- ② 「きたくりん」は籾重量が少ない上にくず米が非常に多かった。
- ③ くず米の内訳は、1.9 mm以下の小粒で、「きたくりん」は青未熟が多い。

表-2 収量調査

品種	籾収量 kg/10a	玄米重 kg/10a	左比 %	玄米重比率 %	くず米重 kg/10a	白米重 kg/10a
ななつぼし	592	366	100	62	77	333
きたくりん	219	83	23	38	58	76

8 考察

- ① 「きたくりん」は短稈ではあるが、成熟期が遅く収量性が低い。
- ② 「ななつぼし」は稈長が長く、穂長も長いいため、倒伏の可能性はあるが、収量が優れ、陸稲として栽培する際の安全性は高いと考えられる。
- ③ 吸汁性害虫の発生が多く、ノビエの除草にも労力を要したことから、除草・殺虫については必要な作業と考えられる。

